

日本史B

第1問 問3 「3」

史料と時代背景を関連づけて考察する問題で、各学力層で差がついた

問3 下線部③に関連して、次の史料はある上級貴族の日記に記された奥州藤原氏に関する記述で、後の年表は史料の記述が書かれた時期のおもな出来事である。史料と年表から考えられることをまとめた後の文章中の空欄 に入る語句の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

史料 ある上級貴族の日記

- ・奥州夷狄秀平(注1)を鎮守府將軍に任ず。乱世の基なり。(1170年5月27日)
- ・奥州戎狄秀平、禪門(注2)の命により頼朝を伐ち奉るべきのよし、請文(注3)を進らせおわんぬと云々。但し、実否いまだ聞かず。(1180年12月4日)
- ・去夜除目(注4)あり、陸職(注5)これを注進(注6)す。

陸奥守藤原秀平…(中略)…

このこと、先日議定(注7)のことあるなり。天下の恥、何事かこれにしかんや。悲しむべし悲しむべし。(1181年8月15日)

- (注1) 秀平：藤原秀衡。(注2) 禪門：在俗のまま仏門に入った男性。ここでは平清盛。
 (注3) 請文：上位者の命令に対する承諾書。
 (注4) 除目：大臣以外の諸官職を任命する朝廷の儀式。
 (注5) 陸職：正五位下の小槻陸職。(注6) 注進：ここでは除目の結果を報告すること。
 (注7) 議定：ここでは朝廷の会議での決定。

年表

西暦年	出来事
1170	藤原秀衡が従五位下に叙せられ、鎮守府將軍に任ぜられた。
1179	平清盛が後白河法皇を幽閉した。
1180	以仁王や源頼政が平氏打倒の兵をあげた。
1181	藤原秀衡が従五位上に叙せられ、陸奥守に任ぜられた。

文章

平泉を根拠地として支配を奥羽全域に広げていった奥州藤原氏は、3代目の藤原秀衡が鎮守府將軍、さらに陸奥守に任ぜられた。このことについて、史料の日記を記した人物は している。また、秀衡の陸奥守への任官には、自らの側に奥州藤原氏を取り込み、 において、戦いを有利に進めようとする平氏の思惑があったとされている。

- ① ア 批判 イ 保元の乱
 ② ア 批判 イ 治承・寿永の乱
 ③ ア 歓迎 イ 保元の乱
 ④ ア 歓迎 イ 治承・寿永の乱

第1問 問3 「3」

正解率	47.7%
SS70～75	95.3%
SS65～70	89.0%
SS60～65	78.1%
SS55～60	65.2%
SS50～55	51.7%

2022年度第1回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試
「日本史B」

受験者数:	118,319人
平均点:	48.4点
標準偏差:	16.7

日本史B

第1問 問3 「3」

史料と時代背景を関連づけて考察する問題で、各学力層で差がついた

結果分析

第1問の問3は、奥州藤原氏の任官をめぐる上級貴族と平氏双方の思惑を、史料と年表を通して対比的に把握する問題で、各学力層で差がつかしました。

ある上級貴族が記した日記中の「夷狄」「天下の恥」などのことばから、その人物が奥州藤原氏をどのようにとらえているのかを判断するとともに、年表からその日記の背景にある歴史事象について考える力が求められました。

本問では、史料の読解と知識が求められますが、年表中の出来事が治承・寿永の乱に関係するものであると判断できるので差がついたと考えられます。

指導のご提案

史料から情報を読み取る力に加えて、教科書で学習した知識を確実に習得しておくことが求められます。これからの2か月では、表やグラフなどさまざまな資料を用いた問題演習を重ねるとともに、問題演習を通して知識事項を確実に習得することが大切です。知識を習得する際には、個別の事象を暗記するのではなく、前後関係も踏まえた流れを理解することで、効果的に習得することができます。

共通テストでは、さまざまな資料から情報を抽出し考察する出題が予想されます。限られた時間のなかで情報を整理し、確かな知識をもとに解答する練習を重ねるようにしましょう。